

《教育長メッセージ 第38号》

『春の運動会から』



5月28日に、市内小学校7校で春の運動会が行われました。

私は、7校を足早に回って、子どもたちの活躍する姿を見させていただきました。また、午後の後半の演技を海老名小学校でじっくり見させていただきました。

以前、市内小学校では、多くの学校が、「春の小運動会」と「秋の大運動会」のふたつの運動会を実施していました。週6日制（土曜日半日）から完全週5日制に移行する際に、授業時数確保のために行事の精選に取り組む中で、小運動会は実施されなくなりました。

そんな中で、海老名小学校と東柏ヶ谷小学校は、校舎の増築や建替えなどの都合により、春に運動会を実施するようになりました。そして、ここ2年間で、熱中症対策のためなどにより、春の運動会が7校に増えたという経緯があります。

学校には、保護者が参観できるさまざまな行事がありますが、運動会・体育祭が一番多くの人々が来校する行事となっています。

学校は、運動会の目標を掲げ、教職員で話し合っ、目標達成のための計画を立てます。担当の職員は、前年の反省等をふまえ、数か月前から運動会に向けての取組を始めます。

どこの学校でも、約1ヶ月前ごろから、練習が始まります。特に、子どもたちの練習が始まるずっと前から、学年の職員は、どんな演技にするか話し合い練習計画を立てます。

そして、ダンスなら自分たちが踊れるように練習するのです。

保護者や地域のみなさんにとっては、運動会は当日ですが、学校にとっては、長い道のりなのです。

その長い道のりが、見ている人を楽しませ、喜ばせ、感動させるのです。

特に、6年生の演技は、小学校最後の演技ということで、子どもたちも教員も力が入ります。無理をさせる無理をするということではなく、自然と思いが込められて、かけがえのないものになっていくのです。

今年は、私は、海老名小学校で運動会のクライマックスの6年生の演技を見させていただきました。

朝礼台で演技を指揮する教員の目は、これまでの道のりで起こった様々なことがこみ上げるのでしょう、目の前で輝く子どもたちの姿がまぶしい

のでしょう、涙でいっぱいでした。

そして、退場する子どもたちの顔は、やり遂げた満足感があふれて、さわやかでした。

各学校にご来場いただいたみなさんは、どのように感じられたでしょうか。お子様の演技に、感動した方も多かったことでしょう。

秋には、小学校6校、中学校6校の運動会・体育祭が行われます。

多くの市民みなさんに、子どもたちの姿を学校の様子を見に来ていただきたいと思うのです。

今回は、「なんでも屋」と題して、学校の現状を伝えたいと思います。